

人づくりの経営学部



京都産業大学名誉教授 山田昌孝

学部開設 50 周年おめでとうございます。私が本学部にお世話になったのは、1995 年 4 月から 2010 年 3 月までの 15 年間でした。経済学部の大学院から独立して MBA 的な経営学部のマネジメント研究科を設立するために藤井則彦先生、後藤文彦先生、西澤正行事務長さんを中心に現在の柴孝夫先生や佐々木利廣先生をはじめ諸先生方が精力的に準備をなさっているところに参加させていただきました。在職中は、経営学部は修士課程の完成に続いて博士課程も設立された勢いのある時期でした。

赴任前、私は、東京の大学に行こうかと迷っておりましたが、本経営学部を選んで本当に良かったと思っています。それは、経営学部の先生・職員の皆様の教育熱心なお陰でどちらかというとな熱心な私が教員としてしっかりとゼミ生との絆の絶えない生涯の居場所を得られたからに他なりません。当時、柴先生が入院中の高齢院生の枕元で修論指導をされていたことを常に思い出します。退職後現在 8 年目となりますが、6 月にゼミ生の結婚式に招かれ、またこの 10 月にもお誘いをいただいております。披露宴では必ずワンテーブルはゼミ生で占められており、日々フェイスブックを開けば卒業生の話題で一杯です。私の世代では子供は 2 人が一般的でしたが、本経営学部の卒業生たちが 3 人、4 人と子育てに頑張っているのを見ると彼等、彼女等の勢いを感じます。素晴らしい卒業生たちです。

研究指導の面でも退職に際して博士課程の社会人学生の指導を吉田裕之先生に引き継いでいただき、この 3 月に研究科長の中井透先生をはじめ諸先生のご指導で世に送り出すことができました。中でも吉田先生には長期にわたり工学部出身の私と学生との二人分、いや、それ以上のご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

このように経営学部の「人」を大切に守られて、私のようなものにも一生の宝としてのゼミ生仲間を持たたということに感謝しております。さらに入学資格の寛容さに関しましても、ご本人が時々仰っておりますので書かせていただきますが、マネジメント研究科に入学できるとは思ってもいなかったという彼が修士号取得後には、得意分野で学部授業を引き受けて既に 10 年を経過し、この夏には広島県の公立大学の大学院で、毎土曜日に 2 コマ、MBA コースの科目の集中講義

をするまでに成長いたしました。この懇切丁寧な人づくりの経営学部・研究科の伝統はこれからも是非教職員の皆様方に引き継いで行っていただきたいと心から願っております。

専門のマーケティング分野では、市川 貢先生、吉田裕之先生、後から参加された川又啓子先生、福富 言先生がいらっしゃいます。私の専門がマーケティング分野からやや外れた新製品の採用と普及でしたので直接の共同研究はなしえませんでした。先生方のユニークな研究アプローチに大いに刺激を受けてまいりました。また『マネジメントを学ぶ』という柴先生ご担当の学部用教科書の1章を担当させていただいたり、藤原雅俊先生と具 承桓先生のお誘いをいただいて『ICTイノベーションの変革』という専門書の1部を担当させていただきました。この時のお付き合いと教授会での隣席が多かったご縁で久保亮一先生とは妙に気が合って、退職後の大学訪問時にはしばしば研究室を訪問させていただいております。また、この3月に退職された井上一郎先生には研究室が隣で日電(NEC)のご出身、私が富士通出身ということもあって、ゼミの運営から健康管理に至るまで細かくアドバイスをいただきました。コンセプトは違いましたがゼミ運営に強い興味を持つようになったのは先生の影響が大きかったと感謝しております。

ビジネススクールを卒業し、前任校を含め日米ともにビジネススクールで過ごした私にとっては、赴任直後は本学の環境はかなり違和感のあるものでした。そして、現在も縁あって、再びビジネススクールの前任校に勤務しておりますが、これから日本のビジネス関係の学部・研究科がAACSBなどの国際認証取得を目指して切磋琢磨していく時代に入っていくだろうと予測しております。しかし、双方を体験した私は、人づくりの伝統の上にある本学の経営学部、マネジメント研究科の「歴史志向」、「システム志向」というコア・パースペクティブは、大変重要で貴重なものと確信しております。それゆえ、国際化の流れの中で是非ともこれらを失うことなく、道は違って優れたリーダーを社会に輩出するという同じ頂点に向かって皆様のご尽力を心より願っております。

京都の伝統は、私を含めて昔から多くの人びとに素晴らしい贈り物をしてきてきました。この京都の伝統はきっとこれからも神山の地に生まれ育った生え抜きの50歳の経営学部を守り、その発展を導いてくれるものと確信しております。

最後になりましたが、経営学部開設50周年をお祝い申し上げ、今後の益々のご発展を祈念申し上げます。ここに先人の方々のご尽力に感謝申し上げます。現職の皆様方と在職中にお世話になりました皆様方のご健康とご発展を心よりお祈り申し上げます。

やまだ

(山田昌孝 2010年3月退職)